

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 1905 号

A retrospective study of trends and background related to pneumococcal vaccination among out- and inpatients during 5 years: A single-center study

(単施設における 5 年間の肺炎球菌ワクチン接種者数の推移およびその背景に関する後方視的研究)

阿部 信次郎 (あべ のぶじろう)

博士 (医学)

論文内容の要旨

我が国において 2014 年 10 月から高齢者などを対象とした 23 価肺炎球菌多糖体ワクチンが定期接種化されている。我々は定期接種化や肺炎球菌ワクチンの接種状況を示すために電子カルテにチェック欄を導入しており、これらによりワクチン接種率が上昇するか、また肺炎球菌ワクチン接種者の背景を調査した。

対象者は 2011 年 4 月 1 日から 2016 年 3 月 31 日に順天堂大学医学部附属順天堂医院総合診療科で肺炎球菌ワクチンを接種した者である。定期接種前後やチェック欄導入前後における 65 歳以上の肺炎球菌ワクチン接種率やワクチン接種者の背景などを調査した。

65 歳以上のワクチン接種者数は 365 名であった。定期接種開始後の 65 歳以上のワクチン接種率は 1.0%で定期接種開始前の 0.5%よりも有意に高値であった($p<0.05$)。ただし、定期接種導入後しばらくしてからワクチン接種率の低下を認めていた。

65 歳以上の肺炎球菌ワクチン接種率は定期接種化導入後に有意に高値であったことから定期接種化はワクチン接種率の上昇に関連していると考えられたが、定期接種導入後しばらくしてからワクチン接種率の低下も認めており、この点からは現行の施策の限界も示唆されたため、定期接種対象年齢の拡大や再接種者も対象とすること、ワクチン接種費用の公費全額補助などが望ましいと思われた。